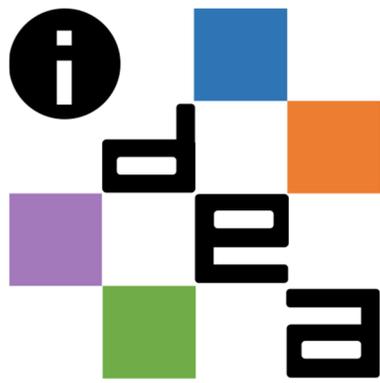


NPO・行政・企業・地域の情報発信により、アイデアと出会いの機会を創ります。  
ニュースレター アイデア



2018

6月号

つながり×ひろがる

いちのせき市民活動センター



- |   |         |                       |
|---|---------|-----------------------|
| 2 | 二言三言    | これからの「地域と学校」の在り方を考える  |
| 4 | 団体紹介    | 地藏田伝承会 (千厩)           |
| 5 | 地域紹介    | 花泉 白崖集落公民館 (花泉)       |
| 6 | 企業紹介    | カントリーショップ 森のくまさん (川崎) |
| 7 | センターの〇〇 | センターの自由研究 地藏田         |

## これからの「地域と学校」の在り方を考える

対談者 一関修紅高等学校 教諭 きよた ひろみ 清田 博美 さん  
 聞き手 いちのせき市民活動センター センター長 小野寺 浩樹

清田博美先生は‘地域に根付き信頼される学校’を目指して、生徒と一緒に地域に出てどんどん活動の場を広げています。清田先生が思い描く「学校と地域の繋がり」や、生徒への想いについて伺いました。

### 体操や恩師から学んだこと

【小野寺】まずは清田先生ご自身のことについて伺っていきたくと思います。清田先生は一関市のご出身ではないようですが、こちらに来られたきっかけや経緯について教えてください。



一関修紅高等学校  
教諭 清田博美さん

【清田】僕は京都市伏見区の生まれなんですけど、父親がJRA（日本中央競馬会）に勤めていたり、親戚も皆、競馬関係の仕事をしていました。僕も小さい頃は騎手になりたくて、体幹を鍛えるために体操を始めました。高校は体操が強い京都の洛南高校に入学し、3年の時にインターハイで優勝しました。そして順天堂大学に進学し、京都府の教員試験に合格して、伏見工業高校に赴任したんです。そこで、ラグビー部の監督をしていた山口良治先生と出会いました。ドラマ「スクール☆ウォーズ」の主人公のモデルにもなった有名な先生です。僕は3年間、山口先生の下で教育の原点を教わり、山口先生を訪ねてきた色々な方と出会う機会もいただきました。

【小野寺】そんな経緯があったんですね。山口良治先生と言えば、全国から色々な方が会いにいらっしたんじゃないでしょうか。

【清田】ええ。社長、芸能人、政治家の方などたくさんの方が先生を訪ねてきました。そういう方と話す中で、ものすごく僕の価値観が広がりましたね。そして次に紫野高校へ転勤し、そこでは体操部を担当しインターハイ出場までいきましたが、教え子が3人、全日本チャンピオンになったんですよ。卒業後はラスベガスのシルク・ドゥ・ソレイユで活躍している子もいますし、新体操の曲に興味を持ち、今は月9ドラマやアニメの作曲家になった子もいます。体操から興味を広げ、違う世界に行くっておもしろいでしょう。

【小野寺】それはすごくおもしろいですね。

【清田】そんな中、岩手（前沢）に住んでいた家内の父親が亡くなり、急ぎよ帰ることになったんです。申し訳ない気持ちもありながら公立高校の先生を辞め、家内と子どもと一緒に岩手に来ました。少し休職期間を置いてから、もう一度先生の採用試験を受けようと思ひ、いくつかの高校に電話して履歴書を持っていったんです。そうしたら一関修紅高校の体育の先生がたまたま僕と同じ順天堂大学の出身で「何かあったら宜しく」と話したんです。数か月後、その先生が教頭先生に上がられて、体育の先生の席が空いた時に、僕に「先生をやってみないか」とお話をいただいたんです。

一関修紅高校に来てから「私学はどうあるべきか」と考えました。公立高校は転勤がありますが私学はないですし、地域に根付き、地域に信頼される学校づくりを想像したんです。地域の方が学校に来て生徒に声をかけてもらえるような、地域も生徒も先生もワクワクして幸せになれるような、賑やかな学校にしたいと思いました。

### 地域と学校の関わり方を考える

【清田】生徒の力量をつけたいと思ひまして、幼児教育コースでは月に1回陸前高田市に行き体操を教える活動をさせてもらっていますし、本校の武道館でも体操教室を開いています。

ライフデザインコースでは、今年年配の方の体操指

導を始めようと思っています。孫のような歳の生徒に体操を教わったらきっと長生きするでしょう！それをきっかけに介護の仕事を目指す生徒も増えるかもしれませんね。なので、もし地域で「年配の方向けに体操教室をやりたい」というような話があれば、できるだけ協力させてもらいたいと思っています。

【小野寺】それはすごいですね！

【清田】生徒の力量を高めるだけでなく、そういう経験の中で、思いやりや気遣い、挨拶の仕方などを覚えて、運動や勉強以外で得意なことや、生徒の良いところを見つけていければと思っています。

【小野寺】最近よく「地域と学校の連携」と言われるんですけども、学校も地域も、お互いに関わっていけば良いかわからないんだと思います。なので、その接点をどう作っていくかがポイントかと思っています。今は従来の学校教育を求めている時代ではなくなってきていますし、何でも「地域と」という時代なので、地域は学校に求めることを示して行ってほしいし、学校側はもっとオープンになってもらいたいですね。学校だとどうしても勉強や成績ばかり意識しがちですが、地域に出たり、色々な人と繋がりを作ったりすることも大切です。一関修紅高校さんでは、コミュニケーション能力と人との関わりを強く作られてきているなと思いますし、積極性を感じますよね。



「一関・平泉バルーンフェスティバル」で出店したブースの様子。このほか、「リレー・フォー・ライフ」や「全国わんこもち大会」など、多様な地域イベントに参加・協力しています。

【清田】ありがとうございます。「一関修紅高校に行くとおもしろい」とか「楽しい」って思ってもらえるようになりたいですね。それに「この地域をどうしたい」とか「学校をこんな風になりたい」とか、色々なところで思いや夢を語りたし、ほかの学校や地域や人を巻き込んでいきたいです。

【小野寺】もっと色々なところと連携体制をとっていききたいですし、そういう構想がどんどん固まっていけばいいですね。

【清田】まずは一歩を踏み出すことですよね。悔いは残したくないので。

【小野寺】清田先生ご自身が、楽しみながらやっ

るのも良いですね。お話を聞いて、我々も頑張らなきゃいけないなって思いますよ。



## ‘自立’は‘助けて’と言える力

【清田】今の子ども達の一番の課題は、「自立」だと感じています。「自立」は全部一人でやるということではなく、「助けて」と言える力ですよ。

【小野寺】それは大人でもそうだと思います。すぐに「できます」「大丈夫です」と言っちゃうんですね。

【清田】「助けて」が言えないから、他の人も助けようとしな。い。「助けて」は雑談の中から気づくこともできると思います。何気なく「そういえばあの子どもどうなったの？」から始まり「こうしよう」「ああしよう」って話が発展したり。だからコミュニケーション能力は大事だと思うんですね。

【小野寺】教育の場面では、自分の意志を言わせなかった環境がしばらく続いていじやないですか。インプットばかりで、子どもに教えては「何でわからないんだ」「理解しろ」と言うけれど、「どこがわからないのか教えて」という習慣はなかったんですね。

【清田】「何を言えばいいんだろう」って構えちゃうと何も言えなくなりますからね。

【小野寺】子どもも大人もそうなんですが、意見や考えを引き出せないとコミュニケーションもとれないし、何を考えて求めているかもわからないし。意見を聞くことで初めてニーズの模索になるので、やはり「自立」もコミュニケーション能力も必要なことだと思いますね。

【清田】それを培うためにも、地域に出たり色々な人と接することは良い経験になると思うんですね。そういった課題に向き合いながらも、これからも生徒と共に自分も常に挑戦し成長し続けたいです。昨日の自分より今日の自分ですね！

### 一関修紅高等学校

住所：〒021-0807 一関市字東花王町6-1

電話：0191-23-3096

FAX：0191-23-3095

## 団体 紹介



今年の田植え後の集合写真

### ～基本情報～

- ◆理事長：伊藤薫さん
  - ◆住所：〒029-1111  
一関市千厩町奥玉坂下 43
  - ◆電話：0191-56-2009
- ※地蔵田にまつわる言い伝えや田植えの様子は、「センターの〇〇」ページに掲載しています。

## 丸い田んぼがつかないだ交流の輪

### 奥玉に伝わるお地蔵様と田んぼの昔話

千厩町奥玉地区の西側に、丸い形をした田んぼがあるのをご存知ですか？

奥玉には「西の地方に暮らしていた兄弟がお地蔵様のお告げを聞いて旅に出て奥玉にたどり着き、兄はお寺の和尚になり、弟は田んぼを開いた」という言い伝えがあり、お寺のお地蔵様に奉納する米を育てる円形の田んぼは「地蔵田」と呼ばれ、受け継がれてきました。その兄弟の末裔とされる家で地蔵田を管理し、穫れた米を地蔵院に奉納してきましたが、昭和 32 年に千厩町の圃場整備が始まり、奥玉から地蔵田は姿を消してしまいます。

今回は、一度は地域から姿を消した地蔵田を復活させた地蔵田伝承会の伊藤薫さんと地蔵院住職の大場浩俊おおば こうしゆんさんに、伝承活動を通じて生まれた交流について伺いました。

### 地域で協力して地蔵田復活！

子どもの頃から近所のおじいちゃんやおばあちゃんから地蔵田の言い伝えを聞いて育った伊藤さん。一度就職で奥玉を離れましたが、帰ってきてから「地蔵田を復活することはできないか」と思い、地蔵院住職の大場さんや地域の人に相談して、伊藤さん所有の休耕田を使って地蔵田復活に取り組むことにしました。

復活に向けて動き出すと「じゃあ私は地蔵田の看板を作るよ」など、協力者が集まり、平成 16 年に地蔵田が復活。地蔵田がなくなっていた間も、お寺に地域の米を奉納する行事は続けられてきましたが、その年からは参加者を募って地蔵田の田植えを再開し、毎年の恒例行事になっています。気仙沼市などからも参加があり、以前奥玉に住んでいた人が子どもを連れて参加したりするそうです。

### 大人も子どもも楽しみな田植えと稲刈り

せっかく昔の田んぼを復活させたんだから田植えのやり方も昔のものをできるだけ再現してみようと、すべて手植えで、肥料や農薬も使いません。

昔は、田植えの日には田んぼに入る前にお供えものをして、無事に作業が終わることや五穀豊穡を祈ってから田植えをしていたそうで、そうした行事も再現。田植えが終わってからの“たばこどき”のメニューも、昔ながらの豆ごはんのおにぎりをみんなで食べるなど、当時の風習の伝承にも一役買っています。

子ども達にとっては、田んぼに入ること自体が珍しく、田植えだけでなく、めだかやドジョウを見つけて遊んだり、自然とふれあう機会にもなっていますが、地蔵田の田植えを楽しみにしているのは子どもだけではありません。奥玉地区では、「農事組合法人 おくたま農産」が地区内の多くの田んぼを借り上げ、一元管理しているため、農作業の面で組合員は助かっている分、田んぼを持っていても入る機会がなくなった大人もたくさんいるので、地蔵田の田植えや稲刈りは大人にとっても貴重な機会となり、久しぶりの田仕事や子ども達との交流を楽しんでいるそうです。

秋にもみんなで稲刈りをして、11月の地蔵講で地蔵院本尊の水引地蔵、お寺の台所の神様である韋駄天に奉納され、収穫を祝います。

伊藤さん、大場さんはこれまでの取り組みを振り返りながら、「地蔵田が地域の歴史の伝承だけでなく、人が集まりコミュニケーションが生まれる場になり喜ばれている」と笑顔を見せていました。



復活した地蔵田

## 地域紹介



集落公民館長 佐藤祐二さん

### ～基本情報～

かつては旅館や映画館、診療所、魚屋などもあり永井地域における商業エリアだった白崖集落(永井第9区)。現在は72世帯約200人が暮らしています。ほとんどの家が3代目程度と、集落としての歴史は古くはないですが、その分、柔軟な集落活動を行っています。

## 改革真っ最中！ ～無理をしないための挑戦～

### 変化に「適応」し続ける

「93歳のおばあちゃんが運営委員※として会議にも出てくるから会議日程も昼間に変えたんだよ」そう苦笑いするのは白崖集落公民館長の佐藤祐二さん。現在、来年3月からの自治会化を目指して検討を行っている白崖集落では、このように状況に応じた臨機応変な対応が自然と行われています。自治会化もその1つ。現状は「行政区(永井第9区)」としての組織と「白崖集落公民館」としての組織が地域内にあり、人口が減少する中で、統合によって役や会計処理の整理・効率化を目指しています。さらにバイパス工事に伴い集落公民館を新築移転しなくてはならない状況でもあり、自治会化と同時進行で新公民館の建設準備も進めています。  
※区長、各班選出者、老人代表、婦人代表、青年代表、PTAが運営委員として集落の事業を支えています

### 集落自慢の夏祭り

そんな白崖集落の一大イベントは「白崖夏祭り盆踊り大会」。一度は途絶えてしまった盆踊り大会を、当時の青年部が復活させ、今年19回目を迎えます。復活させた当時のメンバーやお祭り好きな人が関わられるように、実行委員会形式で開催。集落としての補助も出しますが、基本的にはご祝儀等での運営です。

内容も盛りだくさんで、各種アトラクション(スイカ早食い、ラムネ早飲み、ビール早飲み、的あて等)、屋台(ヨーヨー、福引、各種食べ物)、花火大会のほか、子どもたちがペットボトルに絵を描いて作成した「夢灯り」が会場の至る所に設置されます。また、平成26年に約50年ぶりに復活させた「白崖小唄」も盆踊りとして祭りを盛り上げます。

「白崖夏祭りを永井地域全体としての開催にしないか」という声も出ているようだが、集落としては現状の規模のまま、あくまでも自分たち主体でできる限り運営していきたい」と佐藤さん。現在、夏祭りの開催は

他集落にもポスターを掲示して周知しており、集落外の人も参加できるようになっているため、毎年参加者は200人にも及びます。集落外からの参加を歓迎しながらも、あえて永井地域全体の取り組みとしての開催にはしないという姿勢に、白崖集落の一大イベントとして、誇りを持って運営していることが伝わってきました。

### 必要性を天秤にかけながら

集落の事業には他にも廃品回収やどんと祭(神社等とは関係なく、集落としての開催)、日帰り研修旅行等がありますが、興味深いのが料理教室。集落内に中国からのお嫁さんがおり、歓迎と交流の意味合いで、そのお嫁さんを講師にした中華料理教室を開催したそうなのですが、それが好評で定例化することに。現在は男性の参加者も増えているのだとか。

また、永井地域では「永井地区防災自治会」が設置され、各行政区が部として組織化されていますが、白崖集落ではこの部とは別に独自で「白崖集落自主防災会」を立ち上げています。集落内での有事の際により軽いフットワークで動けるようにとの立ち上げでしたが、毎年勉強会も欠かしません。今年は新たな試みとして、7月に白崖出身の地学の先生をお呼びし(福島在住)、土砂災害等に関する講話をいただく予定です。

事業は「1つ増やしたら1つ減らす」という心構えで運営しているという白崖集落。決して無理をせず、しかし、必要と感じたものにはしっかりと対応していくという意識が自然と培われているように感じます。

早くても3年後という新公民館の建設。拠点のない中での活動は不便と言いながらも、しっかりと現状の活動をこなし続けている同集落の今後にますます期待です。



拠点のない中でのどんと祭  
(市民センターのグラウンドを利用)

## 企業紹介



代表 熊谷 収さん

### ～基本情報～

- ◆代 表：熊谷 <sup>おさむ</sup> 収 さん
- ◆住 所：〒029-0202  
一関市川崎町薄衣字鴨地 167-8
- ◆電 話：0191-43-4030
- ◆F A X：0191-48-3404

## 世界にひとつだけのオンリーワン家具を一関から発信

### サラリーマンから職人の道へ

国道 284 号線沿い、川崎町のホームセンターコメリの角を曲がり（市内からだと左折）、約 400m 先に「Country Shop 森のくまさん」という手作り看板が見えてきます。自宅敷地内に隣接する工房からは木の香りと共に愛情こもったオーダー家具が依頼主のもとへ旅立つ準備をしているところ。「ハンドメイドのオーダー家具なので、出荷してしまうと手元に残らないんですよ。手塩にかけて育てた娘が嫁に行くような気持ちです」と語るのは、“森のくまさん” こと同ショップ代表の熊谷収さんです。

カントリー家具と熊谷さんの出会いは 20 年ほど前。友人である福島県のカントリーショップ経営者から「作って見たら？」という誘いを受け、趣味で木工を始めてみると、同じ友人から「いい作品だからネットで販売してみてはどうか？」と勧められ、思い切ってネットに掲載したところ丁寧に作り上げられた家具の評判が良く、個別にオーダーをいただくまでになったのだとか。

平成 23 年 10 月からは、オーダー家具のショップを立ち上げ、市内の企業に勤めながら休日に家具を作りネット通販中心の営業をしてきましたが、末の息子さんの高校卒業を機に「自分の好きなことを仕事にしよう」と決意し勤め先を退職。その後、花巻市にあるポリテクセンター岩手※で 6 か月間の木工に関わる研修を経て独立、工房での仕事を本格化させました。

※ポリテクセンター岩手：独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構 岩手支部岩手職業能力開発促進センター

### 新たな命が吹き込まれる家具たち

「昔から物づくりが好きだった」と語る熊谷さんが工房立ち上げをきっかけに新たに挑戦したのは“木工教室（予約制。HP に掲載している完成品の販売価格の 30% は指導料として受け取っています）” で、毎月

第 4 土曜日に開催。定員は 1 回の開催につき 2～3 人程度で、事前に電話もしくはメールで作りたいものをご相談いただき、申込者の希望に合わせて作品作りを指導するスタイル。「家具や雑貨を作りたい」という女性の申し込みが多く、特に台所用品（調味料置きなど）が人気なのだとか。

また、カントリー家具だけではなく、昔使っていた茶筆筒や思い出の遺品家具などのリメイクも手掛けるなど、オーダーメイド感覚でアレンジし直す作業依頼も多くなってきているとのこと。

### 地元に愛され、人に愛される物作りを

現在、家具は月に 40～50 品のオーダーがあり、そのうち 10 品くらいが市内からの注文なのだとか。オーダー後、設計～出荷処理まで熊谷さん一人でこなし、引き出し 7 個までついたチェスト 1 台であれば、制作には職人さんの中でも早い方で、約 6 時間ほどで完成させることができるといいます。「ネット販売が中心だったころは県外からの問い合わせがほとんどでしたが、ここ数年は市内や地元の方にも注目をいただき年々問い合わせが多くなってきました」と嬉しそうに笑顔を見せる熊谷さん。大きな家具のほか、小物入れなどもオーダーメイドにこだわるのは「置きたいところにぴったり置いてほしい」という思いからだと言います。家具を製作するにあたり、素材はカナダ産ホワイトパイン材を使用していますが、「地元の木材を使用して、ここでしか作れないものにも今後挑戦していきたい」と、地場産品による木工製品の製作にも意欲を見せていました。



Facebook やホームページでも情報発信中！  
<http://www.morino-kumasan.com/>

# センターの 〇〇!



Google マップで見るとミステリーサークルのようなきれいな円形が…!

千厩町奥玉地区に変わった形の田んぼがあるとの情報を目にしたので、どのような由来があってなぜその形になったのか調査し、田植えの様子取材しました!

※地蔵田伝承会の活動は「団体紹介」ページに掲載しております。

## どうして円形なの?

奥玉地区では、お地蔵さまと兄弟の昔話(右の「地蔵田の由来」参照)から「地蔵田」と言い伝えられていますが、この円形の田んぼは、岐阜県、高知県、新潟県などにも風習が残っており、新潟県などでは、車輪の形に見えることから「車田(車田植)」と呼ばれています(新潟県佐渡市では国、岐阜県高山市では県の重要無形文化財に指定されています)。

「なぜ円形なのか?」については、「円は恵みの太陽を表す」「豊作の神が降りてくる目印」「円の中心かららせん状に稲を植えることで神様や菩薩様に奉納する米をまたがないようにする」という言い伝えもあり、神事に関連した農作業の方法と考えられています。

また、新潟県佐渡市では田植終いに車田植を行い、その年の豊作を祈願することから「終田(おうだ)」とも呼ばれています。

ちなみに、岩手県では神社のための奉納田はあるそうですが、地蔵田のようにお寺のための奉納田は珍しいそうです。

## 田植えレポート

今年の地蔵田伝承会や地域の皆さんの田植えの様子を取材しました!

### ① 田植え前のおつとめ



お地蔵さまと田の神さまにおにぎりなどをお供えて、五穀豊穡と作業が無事に終わることをお祈りします。

### ② みんなで田植え



事前に引いておいた線を目印に手植えしていきます。「足が抜けなくなった!」と大人が子どもに助けをもらう場面も…(笑)。

### ③ たばことき



毎年昔ながらの豆と塩だけのおにぎりが振る舞われます。スタッフもいただきましたが、とってもおいしかったです!

## ～地蔵田の由来～



# おしらせ

イベント

## 第3回 朝香さんちで 道草展

主催:道草展実行委員会

藍染・型染、着物リメイク、アクセサリ、布小物、お香、陶芸、編み物などの手作り作品を展示・販売するほか、採れたて野菜の販売やハンドマッサージなども行います。開催期間中は、作品づくりを体験できるワークショップを毎日開催します。

\*\*\*\*\*

【期間】平成30年6月8日(金)～11日(月)

【時間】9時～16時(6月8日(金)は13時から)

【場所】佐藤宅(一関市花泉町涌津字向川14)

【料金】入場無料

【問合せ】090-7638-2106(大嶋)

学習会

## 大船渡地域の マツ枯れの現状と対策

主催:NPO法人里山自然学校はずみの里

近年、マツノザイセンチュウの被害により大量のアカマツ等が枯れており、風光明媚な景観が危機的状況となっています。深刻な被害状況や、復興に向けた取り組みなどの観察を通じてマツ枯れの現状・原因・対策について理解を深めましょう。6月4日(月)までに下記問い合わせ先までお申し込みください。定員は25名です。

\*\*\*\*\*

【日時】平成30年6月10日(日)8時30分～17時

【場所】大船渡市 碁石海岸

(はずみの里(老松小学校向かい)発着)

【料金】無料 【問合せ】0191-82-3857

イベント

## ミュージック・パーティ〜♪ Vol.4

主催:ミュージックパーティ実行委員会

佐藤篤子さん(ソプラノ)、押川浩士さん(バリトン)、千葉裕之さん(ヴァイオリン)、千葉祐佳さん(奥玉出身/電子オルガン)で、「見上げてごらん夜の星を」「ムーン・リバー」「月に寄せる歌」などを演奏します。

\*\*\*\*\*

【日時】平成30年6月15日(金)18時30分開演

平成30年6月16日(土)14時開演

【場所/チケット取り扱い】マリアージュ(千厩町千厩)

【料金】前売り券2,000円、当日券2,500円

※小学生以下は無料です。

【問合せ】senmaya.kizunaproject@gmail.com

イベント

## 玉ねぎ収穫祭

主催:玉ねぎの会

「一関ハラム焼きなじよったべ隊」が作るハラム焼きに使用する玉ねぎを、地元JA青年部などによる「玉ねぎの会」が栽培しています。収穫祭に参加された方全員に収穫した玉ねぎをプレゼントするほか、即売会も行います。ぜひ親子でご参加ください。

\*\*\*\*\*

【日時】平成30年6月16日(土)8時～12時

(開会式は9時から。途中参加可)

【場所】室根西小学校付近の畑

【料金】無料(軍手等をご持参ください)

【問合せ】080-2843-8519(芳賀)

講座

## 自治会長サミット(第1回)

主催:いちのせき市民活動センター

「協働のまちづくり」の背景や進め方等を学び、自治会長としての関わり方を考えていきます。「地域協働における自治会長のポジション」をテーマに、当センターの小野寺センター長の講演、藤沢町住民自治協議会の千田博さん、室根第12区自治会の三浦幹夫さんが発表します。

\*\*\*\*\*

【日時】平成30年7月4日(水)13時30分～16時30分

【場所】川崎市民センター

【対象】市内自治会長または準ずる役職員の方

【参加料】無料

【問合せ】0191-26-6400

講座

## まちづくりコーディネーター 養成講座(1回目/全6回)

主催:いちのせき市民活動センター

地域づくり活動の基本的な考え方や進め方、知識を身につけて皆の声や力を引き出す地域のコーディネーターになろう!7月～10月までの全6回講座です。1回目は「まちづくり概論～地域づくり×地域福祉～」をテーマに講演を行い、地域福祉の視点を交えて今後の地域づくりを考えます。

\*\*\*\*\*

【日時】平成30年7月11日(水) ※1回目

【時間】9時20分～12時

【場所】なのはなプラザ4階 共同会議室

【受講料】2,000円(全6回分)

【問合せ】0191-26-6400

## 「貸借対照表の公告方法」を 定款に定めていないNPO法人の皆さまへ

今までは資産の総額の登記を毎年変更することが義務付けられていましたが、平成28年の特定非営利活動促進法の一部改正に伴い、その変更登記が不要になる代わりに、**毎年貸借対照表の公告を行うこと**が義務づけられるようになります(平成30年10月1日施行)。

### ◆ポイント◆

「**貸借対照表の公告の仕方**」を、遅くとも**平成30年10月1日までに定款に定める必要があります。**

→総会で定款の変更を議決した上で、所轄庁等に「定款変更届出書」を提出しましょう。

## <記載例>

### 第△条

この法人の公告は、この法人の掲示場に掲示するとともに、官報に掲載して行う。ただし、法第△条に規定する貸借対照表の公告については、〇〇に掲載して行う。

下線部は下記①～⑤の方法の中から選ぶことができます。

- ① 官報に掲載
- ② 日刊新聞紙に掲載
- ③ 電子公告(法人のHPなど)
- ④ 内閣府NPOポータルサイトの法人入力情報欄に掲載
- ⑤ 主たる事業所の掲示場への掲示

※③の場合は、約5年間継続して広告する必要があります。

## 今月の表紙



千厩町奥玉地区の菜の花畑です。奥玉振興協議会の地域振興部会の景観形成事業として、昨年10月に町下地内の休耕田を活用して作付けされました。今年5月には「菜の花を見る会」が開催され、パーベキューや歌謡ショーを楽しまれたそうです。

## Q&A あなたの「知りたい」にスタッフが答えます

Q NPO法人は毎年色んな書類を作らなければならないと聞いたけど、どんな書類を作らなければならないの?

A NPO法人は、毎事業年度初めの3か月以内に、前事業年度の①事業報告書、②活動計画書、③貸借対照表、④計算書類の注記、⑤財産目録、⑥年間役員名簿、⑦前事業年度の末日における社員のうち10人以上の者の名簿を作成しなければなりません。その書類は所轄庁に提出するとともに、作成日から5年が経過した日を含む事業年度末までの間は、法人の事務所に備置置かなければなりません。

